

<http://www.shika-implant.org/>

インプラント
ニュース



since 1972
Japanese Society
of Oral Implantology

第13号

平成23年2月10日発行

Implant News No.13

公益社団法人 日本口腔インプラント学会会報

発行人 川添 堯彬 編集 公益社団法人 日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 芝コトブキビル301

TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

HP : <http://www.shika-implant.org/> Eメールアドレス : jsoi@peace.ocn.ne.jp

【本号のトピックス】

公益社団法人移行について, 第40回学会学術大会開催報告,
DGIに出席して, 各賞受賞者紹介

公益社団法人移行について

理事長 川添 堯彬

1986年に日本インプラント学会と日本デンタルインプラント研究学会が合併し、本学会が発足しました。その背景には、我が国の口腔インプラント学の向上と、予知性安全性の高いインプラント治療を普及する必要性がありました。その後学会は順調に発展し、2005年には社団法人格が承認され本学会は社団法人日本口腔インプラント学会となりました。2007年には従来の認定医制度からより専門性が高い専門医制度に移行し、新たに認証医制度を設けました。さらにインプラント専門歯科衛生士制度とインプラント専門歯科技工士制度を設けました。そして2009年には本学会の会員数は1万人を超え、本学会は歯科医学会

専門分科会の中で最大の学会となりました。一方、インプラント治療は広く社会に浸透し多くの患者さんがインプラント治療を受けており、本学会の社会的役割と責任も増えています。このような状況において、昨年6月30日に本学会は公益法人格を申請し、昨年11月9日に内閣府より公益法人格の認定を受けました。

本学会が学会員の学術と技能の向上に努力することは勿論ですが、これからはさらに広く社会に情報を発信し、多くの人々のQOL向上に貢献するよう努力致します。学会員におかれましては、公益法人の会員として自覚をもち、一層社会的に貢献されるようお願いする次第です。

このたびの東北地方太平洋沖大地震により被害を受けられた会員におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。なお、診療室等の被害状況を学会までお知らせください。

第40回 日本口腔インプラント学会 学術大会開催報告

大会長 松沢 耕介

第40回日本口腔インプラント学会学術大会が去る平成22年9月17日(金)～19日(日)の会期で、札幌市の札幌コンベンションセンターおよび札幌市産業振興センターを会場として、3,000名を超える参加者を迎えて開催されました。

メインテーマとして「信頼性ある口腔インプラント専門医」を掲げました。

引き受けた当初(一昨年)、あと2年も有るわとのんびり構えて過去2回のマニュアルなんぞ紐解いてじっくりいこうやなんて構えていたのが、後半に入ってから苦しくなりバタつくことになりました。過去2回の当番施設の実施状況と今日の実施状況では会員数の違い、実態が本部主体、各種委員会によるプログラムの組み立て等あらゆる面での実行体制の変わりようで、現場での対応が大変でした。

まず、本部との準備委員会が会期までの間に開催地で何度となく開催されその都度手直しが行われました。手術方法の進歩、海外からの情報の早さ、手術器具の進歩、診断機器等の発達等、ある

意味業者主導であるが如くの進歩発展でありましたが、口腔インプラント学を歯科医師の手に取り戻そうとこの記念すべき第40回大会で打ち出すことを考えました。しかし、いざ計画を立案していくと従来からの慣例に捉われて人件費、諸経費、会場設営費、諸々の行事、学会運営会社費とを考えますと、従来の方法に落ちつかざるを得ないこととなりました。

今回の学術大会は会員数が約12,000名と歯科医学会の中で最大規模の会員を有する学会となり、歯科界にとりましてもすこぶる関心が高い学術大会となりました。

セッションもケースプレゼンテーションに始まり、各種本部行事、特別講演、ワールドサテライトセッション、各種セミナー、シンポジウム、一般口演、ポスターセッション、隣接領域セミナー、モーニングセミナー、ランチョンセミナー、市民公開講座とボリューム満点となりました。特に今回の大会の目玉として、公務ご多忙中にもかかわらず日本歯科医師会 大久保満男会長には特



大会長あいさつ



日本歯科医師会大久保会長の講演



理事長あいさつ



モーニングセミナー

別講演を御依頼申し上げましたところ御快諾を頂きまして、大会準備委員会といたしましては大会の行事に花を添えて頂きました。また、本会理事長による基調講演では2003年4月より今日まで8年にわたる就任期間の中で成就した事業についての解説を披歴していただきました。

更に目新しいプログラムとして会期1日目の午前8時から1時間のモーニングセミナーを幾つかの研修施設にお願いして行ったこと、また、今回第3回日本口腔検査学会総会・学術大会を併催するという試みがなされました。要するに今日の口腔インプラント学に欠けているものは埋入して咬合させて幾らといった単純にテクノロジーとアートといった物から、サイエンスとしての突破口となるべく全身からの視点でどうなのかといった別の視点からのアプローチとして、従来隣接領域でのセッションでありました口腔検査学会が東京歯科大学井上 孝教授の発案で学会として当学会に併催を申し込まれ、より学問的な深まりを得ることとなったのは本学会にとりましては益々益することになることと思います。

シンポジウムは4つで、その中で3の難易度から考察された榎本先生と菅井先生による講演が特に目を引きました。また、セミナーでは8セッションからなり、特に今回全身管理の面からBLSを取り上げたことは遅きに失した感も無き

にしも非ずといった感があるものの、有意義なセッションではなかったでしょうか。

ワールドサテライトセミナーの5演題も興味深いものが多く、この度の特徴の一つとして行ったモーニングセミナー5題は各施設に御依頼を掛けたところ、先着5題としておりましたが間もなく5題すべてが埋まってしまい、残りの応募頂いた施設には丁重にお断りの文章を入れたぐらいいました。

スタートアップセミナー、女性インプラントロジスト育成のためのセミナー、医療従事者のためのセミナー、インプラント専門衛生士、技工士等興味を引く物を揃え、またリレー講演9題につきましてもそれぞれに興味深い演題が揃っておりました。

例年行われております基礎医学者の集い、放射線学会の集い、顎顔面バイオメカニクス学会の集いも概ね盛会にすすめられました。

一昨年提携されましたドイツインプラント学会からはチュービンゲン大学の German Gomez-Roman 先生をお招きしての御講演をお願い頂きました。

特別講演、課題口演、一般口演、ポスター講演その他たくさんの御講演を頂きました、関係企業の皆様、ならびにご協力いただいた皆様には衷心より感謝申し上げます。



札幌コンベンションセンター



ポスター発表風景



懇談会（末次恒夫先生あいさつ）



認定医更新のための教育講演

DGI ドイツインプラント学会（Deutsch Gesellschaft für Implantologie）に出席して

国際渉外委員長 渡邊 文彦

11月25日から27日までの3日間、ドイツハンブルグで第24回ドイツインプラント学会学術大会（24th Congress of the DGI）が開催され、昨年、公益社団法人日本口腔インプラント学会と取り交わした学術協定に従い出席した。DGIとの学術協定は、口腔インプラント治療の発展を目指し、両学会の学術大会時に講演者を招聘し、学術講演の場で情報の交換、共有を目的に行われることにある。昨年は大阪の学術大会の折り、DGIのboard member（理事）7名のうちの一人であるDr. Karl Ludwig Ackermannが、DGIの会長Dr. Gunter Dhom教授の学術協定の署名入りのdocumentを持って代理として来日され、日本口腔インプラント学会理事会の場で調印式が行われたことは周知のことである。

本年札幌の学術大会には、やはりDGIの理事の一人Tubingen大学のDr. Roman Gomez教授が来日講演された。昨年ベルリンで開催されたDGIの学術大会に、JSOIの学術委員長で大阪大学の前田芳信教授と国際渉外委員長である筆者が、日本口腔インプラント学会の川添堯彬理事長代理として伺う予定であったが、インフルエンザパンデミックのため出張許可が得られず、出席できなかった。本年度あらためてDGIから招待状を頂き、両名で学会に出席した。DGIはドイツの歯科医学会にあたる学術組織から認定されたドイツで唯一のインプラントに関する学会で、会員は7,000名を超える大きな学会である。ドイツインプラント学会は、日本口腔インプラント学会との学術協定を非常に喜び、DZZ（ドイツの歯科医学会誌）にもこの記事を取り上げていることから学術協定を結んだことに対して、非常に関心を持っている。

学術大会は、ハンブルグのCCH コンgressセンターにて開催され、11月25日（木）午後7時より開会式が行われた。司会進行は本学術大会の大会長Gerhard Iglhaut先生で、まず大会に際

してのご挨拶が行われた。続いてDGIの現会長Hendrik Terheyden先生の挨拶、昨年の学術優秀論文賞3名の表彰が行われ、この後、2008年にノーベル医学賞を受賞したドイツのHarald Zur Hausen先生の講演が行われた。講演後、司会のGerhard Iglhaut先生から前田芳信教授と私が招聘されたことがアナウンスされ、日本口腔インプラント学会の川添堯彬理事長の代わりとして筆者が挨拶を行った。

会場の雰囲気はとても歓迎ムードで多くの友人、会員から声をかけられた。開会式終了後、場所を移して隣接する会場で会員を対象とした夕食会が行われた。会場には700～800名の会員が出席した。夕食会は円卓テーブルで着席であった。午後12時近くまでバンドを入れて開催された。多くのDGIの方々の紹介を受け、懇親を深めることができた。翌日は午前8時半よりプログラムに従い学術大会が開催された。講演はドイツ語でドイツ語から英語への通訳があったが、参加者全員がドイツ人であり、レシーバーを必要としたのは参加した私たちだけであった。今回の学術大会のテーマは「Treatment Failures- Identification and Management」であり、3つの会場で一般講演（30分であらかじめ、主催者側で決められた講演）、シンポジウム形式のケースプレゼンテーションが2つの大きな部屋で、1つが企業展示の部屋であった。出席者は企業展示の人を含めると学会側の報告では3千数百名であった。日本のインプラント学会との大きな違いは、①会場で寝ている人がほとんどいないこと、②学会会場にほとんどの方が発表を聞いていること、③講演者も座長も時間通りに講演発表、進行を行っていること、④発表会場は2つでいずれも1対3の大きな横長のスクリーンで会場から良く見え、また分散されないため自分が聞きたい会場に行くことができること、⑤お昼は外に出ることなく、すべて学会側が展示場にホットミール（暖かな食事）

を準備していること、⑥懇親会は音楽の演奏等も入れ同伴者の出席で行われていることであった。ただ学会の参加費は会員で歯科医師が495ユーロ、非会員の歯科医師が575ユーロ、歯科衛生士が205ユーロ、歯科技工士が390ユーロであり、参加者はそれなりの気持ちで学会に期待し参加していると思われた。

11月26日、午前11時30分より午後12時まで前田芳信教授が「Helpful Clinical Solution: Removable Implant Restoration Using Magnetic Attachments」のテーマで講演を行った。会場からの活発な質疑が行われた。また、午後4時から4時30分まで川添堯彬 JSOI 理事長の DGI へのビデオメッセージを含め「Undergraduate and Postgraduate Implant program in Japan: 日本における卒前、卒後の口腔インプラント学」について筆者が講演した。学術講演の第1日目は午後5時で終了し、午後8時より会員を対象に歓迎の夕食会が、1900年代の初めにたてられたハンブルグの「fish market: 大きな築地の様な魚市場」を会場に開催された。会場にはおそらく1,500人は参加していた。夕食会は円卓のテー

ブルで、1テーブル10名で、自由に席が座れるテーブルと予めリザーブされたテーブルが用意された。私と前田芳信教授はすでにリザーブされていたテーブルで、DGI会長の Terheyden 教授夫妻、Ackermann 先生夫妻と一緒にテーブルであった。翌日はやはり午前8時30分より講演が開始されている。この点でも彼らはいつ寝ているのかと感ずる。質疑も活発であった。展示場については EXPO と名づけられ115社と最もインプラントに関する学会では大きな展示社数とのことであった。来年は11月にDresdenで開催される予定である。



第41回 日本口腔インプラント学会 学術大会のご案内

大会長 堀田 康記
実行委員長 村上 弘

この度、第41回公益社団法人・日本口腔インプラント学会・学術大会を名古屋の地で9月16日(金)・17日(土)・18日(日)の3日間、名古屋国際会議場で開催することになりました。

メインテーマとして『インプラント医療安全の推進行動』を掲げ、いま一度インプラント治療において、いかに国民に対し安全、安心を具現化していくかを考える学会にしたいと思います。

昨今マスコミ等で、いろいろインプラント治療に係る問題が報じられています。これらは、安心、安全以前の倫理上の問題でもあり、適切にインプラント治療を行っている先生方にとっては誠に腹立たしい限りでしょう。しかし、ここで我々会員がその様な問題を対岸の火事とするのではなく、



それに対しどのような行動をとっていくかは国民の注視するところです。まさに今、それら諸問題に対する対策をどのように具現化していくかが問われていると考えるべきです。

具現化の一つとして、認証医、専門医等の認定

制度やインプラント専門歯科衛生士、インプラント専門歯科技工士の一層の充実は当然のことです。また、ご承知のように当学会は近年、他の歯科の学会に類をみないほど爆発的に会員数が増加しました。この急激な増加は当学会としては喜ばしいことですが、同時に、会員全体の質の担保、底上げも急務となっています。

その意味でも、今回のメインテーマの中の“推進行動”というキーワード、つまり action ということに焦点を当てたいと思います。

また、開催地の名古屋は地理的にも日本の中心に位置しアクセスが便利であり、会場の名古屋国際会議場は、COP10の会場としても世界的に有名になりました。

プログラムについては、特別講演、教育講演、ワールドサテライトセミナー、各種委員会主導の

シンポジウム、ドイツインプラント学会との交流、国際セッション、若手インプラントロジストのためのワークショップ、女性インプラントロジストセミナー、医療従事者セミナー、関連学会シンポジウム、各種セミナー、専門医教育講座、専門歯科衛生士教育講座、専門歯科技工士教育講座、テーブルクリニック、ランチョンセミナー、ケースプレゼンテーション、市民公開講座等々を予定しています。3日間では過密なスケジュールかもしれませんが何とぞ御容赦くださいますようお願い申し上げます。

本学術大会が参加者の方々から“名古屋に来て良かった！”と言われるよう、実行委員長をお願いした愛知学院大学歯学部インプラント科教授・村上弘先生共々最大限努力いたしますので、是非とも多数の参加をお待ちしております。

第41回 日本口腔インプラント学会学術大会のご案内

日時：2011年（平成23年）9月16日（金）～9月18日（日）

場所：名古屋国際会議場

大会長：堀田康記（公益社団法人日本口腔インプラント学会理事・中部支部長）

準備委員長：村上 弘（愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座 口腔インプラント科）

演題募集期間 2011年1月11日（火）～2011年5月8日（日）まで

事前参加登録 2011年1月11日（火）～2011年8月5日（金）まで

名誉会員紹介



齋藤 毅 先生

職歴等

1936年3月3日生まれ

日本大学歯学部卒業

日本大学大学院修了（歯学博士）

日本大学教授，同大学院教授（歯学部）

日本大学教授（総合科学研究所）

日本大学名誉教授

学会活動

日本口腔インプラント学会常任理事

日本口腔インプラント学会副会長

日本口腔インプラント学会用語委員会委員長

日本口腔インプラント学会特別功労賞受賞

日本口腔インプラント学会指導医

第 40 回 日本口腔インプラント学会学術大会受賞者紹介

優秀研究発表賞

笈田 育尚（岡山大学大学院（医歯薬学）インプラント再生補綴学）
「ヘパリン結合活性を増強した大腸菌由来改良型 BMP-2 を用いた骨形成能を有する口腔インプラントの開発」

宮原 宇将（東京医科歯科大学インプラント口腔再生医学）
「新規 GBR 用ナノゲルクロスリンクングメンブレン—ラット頭蓋骨欠損モデルにおけるドライタイプとウェットタイプの骨治癒比較評価—」

阪本 貴司（大阪口腔インプラント研究会）
「インプラント 738 本の生存率に関連する因子の検討」

高橋 哲（九州歯科大学形態機能再建学分野）
「隔壁を有する上顎洞における上顎洞底挙上術の臨床的検討」

デンツプライ賞

戸田 伊紀（大阪歯科大学解剖学講座）
「抜歯窩における β -リン酸三カルシウム小顆粒の新生骨形成と吸収」

渡邊 武（東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学）
「上顎洞外側壁における後上歯槽動脈の分布」

岡田 常司（東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来）
「 β -TCP を用いた上顎洞底挙上術の経時的体積変化の観察
—歯科用コーンビーム CT による分析—」

野本 秀材（東京慈恵会医科大学学生化学教室）
「電子顕微鏡による骨補填材を充填した部位の組織学的観察法」

平成 22 年度表彰者紹介

学会特別功労賞

佐藤甫幸先生が学会特別功労賞を受賞されましたので先生のご略歴等を紹介いたします。
昭和 19 年 5 月 10 日生まれ
東京医科歯科大学歯学部卒
（職歴）佐藤歯科医院院長
（学会活動）日本口腔インプラント学会正会員委員会委員長
日本口腔インプラント学会専務理事

学会特別賞

松本常男先生、三嶋 顕先生が学会特別賞を受賞されましたので先生方のご略歴等を照会いたします。



松本常男 先生

昭和 4 年 8 月 18 日生まれ
昭和 27 年 3 月 日本歯科医専卒業
歯科医籍番号 42800 号

職 歴

昭和 27 年 4 月 東京世田谷 恒見歯科診療所勤務
昭和 31 年 8 月 群馬県伊勢崎市開業（現在に

至る)

昭和51年4月 群馬インプラント臨床研究会
副会長

平成元年4月 伊勢崎市歯科医師会会長

平成4年4月 群馬インプラント臨床研究会
会長

平成11年以後日本インプラント臨床研究会に
合併し副会長(現在は名誉理事)

平成5年2月 日本口腔インプラント学会指
導医, 5月 専門医(共に27号)

平成14年4月 群馬県歯科医師連盟会長(現
在に至る)

平成21年4月 日本歯科医師連盟監事(現在
に至る)

学会活動 日本口腔インプラント学会で発表した
演題名

第10回(新潟) 骨内インプラントのセラミッ
クとブレードの比較臨床観察

第11回(三重) 完全口蓋破裂の顎補綴に応用
せる Intra mucosal insert

第12回(東京) 骨膜下インプラントの正確な
る印象法について

第13回(東京) 骨膜下インプラントのサブス
トラクチャーの固定に対する工夫について

第14回(仙台) 多数歯欠損に応用せる Full
Mouth Bridge について

第18回(大阪) 骨膜下インプラントの数年経
過後のトラブルについて

第19回(福岡) 上顎の骨内インプラントから
骨膜下インプラントに変えた症例(無歯顎)

第24回(横浜) インプラント末期症状のリカ
バリーについて

第26回(岡山) 無歯顎に装着せる10年経過
後のフレームについて

その他, 関東甲信越支部総会にて多数の症例を
発表した

第12回関東甲信越支部総会の総会長を務めた
(平成4年11月 前橋市)

賞 罰

平成6年10月 日本歯科医師会会長表彰

平成10年11月 厚生大臣表彰

平成18年4月 叙勲(双光旭日章を受賞)



三嶋 颯 先生

昭和19年2月5日生まれ

学 歴

昭和44年3月 日本歯科大学卒業

45年3月 北海道大学歯学部口腔外科学教室
入局

48年3月 北海道大学歯学部第Ⅱ補綴学教室
入局

50年4月 山口大学口腔外科学研究生

52年5月 日本歯科大学歯学博士授与

職 歴

昭和49年8月 三嶋歯科医院開院(岩見沢市)

62年4月 医療法人柏葉会三嶋歯科医院設立
(理事長)

学会活動等

北海道医療大学歯学部臨床教授

北海道大学歯学部非常勤講師

日本口腔インプラント学会理事

(社)日本口腔インプラント学会評議員

(社)日本口腔インプラント学会東北・北海道

支部副支部長

公益社団法人日本口腔インプラント学会代議員

日本歯科先端技術研究所北海道地区支部長

日本補綴歯科学会評議員

日本歯科医療管理学会常務理事

日本歯科医療福祉学会評議員

日本有病者歯科医療学会評議員

(社)日本顎顔面インプラント学会評議員

国際歯科学士会地区担当理事

北日本口腔インプラント研究会会長

文部科学大臣表彰受章

学会特別論文賞

横田 誠先生，長岡英一先生，前田芳信先生が学会特別論文賞を受賞されましたので先生方のご略歴等を紹介いたします。



横田 誠先生

昭和 20 年 5 月 29 日生まれ
九州歯科大学歯学部卒業
東京医科歯科大学歯学部大学院（歯周病学専攻）
修了

職 歴

東京医科歯科大学 第 2 保存科助手
東京医科歯科大学 第 2 保存科講師
鹿児島大学歯学部 第 2 保存科助教授
米国ロマリダ大学歯周病センター文部省在外
研究員
九州歯科大学歯周病制御再建学分野 教授

学会活動

公益社団法人日本口腔インプラント学会指導医，
専門医，代議員
日本口腔インプラント学会 九州支部理事
日本口腔インプラント学会 九州支部評議員
日本口腔インプラント学会 九州歯科大学研修
施設長（2002～2004）
（社）日本口腔インプラント学会 委員会
教育委員会委員，認定委員会委員，試験委員会
委員，優秀研究発表賞選考委員



長岡英一先生

職歴等

1946 年 9 月 4 日生まれ
大阪大学卒業
大阪大学歯学部助手（歯科補綴学第 2 講座，
有床義歯補綴学）
大阪大学歯学部附属病院講師（第 2 補綴科，
有床義歯補綴学）
鹿児島大学歯学部附属病院講師（第 2 補綴科，
有床義歯補綴学）
鹿児島大歯学部教授（歯科補綴学講座 2，有
床義歯補綴学）
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授（口腔
顎顔面補綴学（有床義歯補綴学））
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科副研究科長
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院病院長補佐
鹿児島大学歯学部副学部長
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院副病院長
（歯科担当）
鹿児島大学評議員

学会活動

日本口腔インプラント学会第 18 回九州支部学
術大会・総会大会長
日本口腔インプラント学会理事
公益社団法人日本口腔インプラント学会第 28
回九州支部学術大会・総会大会長
公益社団法人日本口腔インプラント学会代議員
公益社団法人日本口腔インプラント学会監事
公益社団法人日本口腔インプラント学会専門
医・指導医
公益社団法人日本口腔インプラント学会指定施
設長



前田芳信 先生

現職 大阪大学大学院歯学研究科 教授
顎口腔機能再建学講座歯科補綴学第二教室
大阪歯学部附属病インプラント研修施設長
大阪大学歯学部附属病院副院長, 近未来
歯科医療センター部門長

職歴等

1951年 11月 25日 生まれ
1977年 大阪大学歯学部卒業
1981年 同 大学院歯学研究科修了, 大阪大学
歯学部歯科補綴学第二講座 助手
1984年 同 講師
1992年 同 助教授
1997年 大阪大学歯学部附属病院口腔総合診
療部 教授
2007年 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔
機能再建学講座 第二補綴学教室 教授

学会活動

公益社団法人日本口腔インプラント学会 (常務
理事, 指導医, 専門医)
第34回 日本口腔インプラント学会総会・学
術大会大会長
(社)日本口腔インプラント学会近畿北陸支部
支部長 (2003~2009)

学会優秀論文賞



安東 俊夫
日本大学松戸歯学部
生化学・分子生物学講座

論文名「Syndecan-4 Gene Expression in
Osteoblasts on Fibronectin Coated Titanium」

この度, 平成22年度日本口腔インプラント学
会優秀論文賞を受賞させていただき, まことに光
栄に思います。御選考いただきました先生方に心
より感謝申し上げます。

近年, オッセオインテグレーションの促進を期
待して, チタン表面にフィブロネクチン (FN)
のような細胞接着タンパク質をコーティングして
細胞の初期接着を促進し, 骨芽細胞の分化を促進
させる研究が行われています。

本研究では, FNとGRGDSPペプチドを tresyl
chloride 活性化法でチタン表面上にコーティング
し, 骨芽細胞様細胞 MC3T3-E1 を培養して, 総
RNAを回収して遺伝子発現を Affymetrix Gene
Chip システムを用いて解析しました。

FNとGRGDSPペプチド上のMC3T3-E1の
ほとんどの遺伝子の発現は類似していましたが,
Syndecan-4 遺伝子の発現はGRGDSPペプチド
に比べてFNコートチタンで高いmRNAレベル
が観察されました。

Syndecan-4は骨芽細胞のfibroblast growth
factor (FGF) 結合とFGF情報伝達系を促進す
ることが知られています。Syndecan-4のFN上
での発現の促進は, 骨芽細胞の分化を助けると考
えられます。

またFNはRGBドメイン以外にフィブリン,
プロテオグリカン, コラーゲン等の結合ドメイン
をもちます, Syndecan-4の遺伝子発現の増大は
これらの結合ドメインに依存していると考えられ
ました。よってRGB以外のフィブリン, プロテ
オグリカン, コラーゲン結合ドメインペプチドの
生体材料付加チタンへの開発が必要であると考え

られました。今後更なる検討を重ねていこうと考えています。

最後に、研究に際して懇切丁寧なる御指導、御鞭撻を頂きました。日本歯科大学松戸歯学部生化学、分子生物学講座、安孫子宜光教授、また研究にご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。

学会奨励論文賞



井出 吉昭
日本歯科大学生命歯学部
歯科放射線学講座

論文名「CTによる後歯槽管の位置の検討」

この度は、平成22年度日本口腔インプラント学会論文奨励賞にご選出していただき誠にありがとうございます。受賞させていただきました論文「CTによる後歯槽管の位置による検討」は、私が一昨年まで所属しておりました日本歯科大学生命歯学部歯科放射線学講座(主任：代居 敬教授)で行った研究です。

顎動脈の分枝である後上歯槽動脈は、上顎洞の外側壁内を前後に走行しており、上顎洞底挙手術の骨開窓を行う際にこの血管を損傷すると手術野が不明瞭になり、洞粘膜の穿孔等の思わぬ偶発症を引き起こすといわれています。そのため、術前CTの画像において、後上歯槽動脈が走行する管(後歯槽管)を読影することにより事前に血管の位置を把握することが大切であると考えられます。今回、私はCT画像上での後歯槽管の検出率と位置の検討を行いました。本報告は、統計解析を基本とした研究ではありますが、本学附属病院インプラント診療センターにご協力いただき、多くの症例の検討を行うことができたため、信憑性のより高いものになりました。

本論文の作成にあたり、代居 敬教授をはじめ、懇切丁寧にご校閲いただきましたインプラント診療センターの高森 等教授、データの収集、処理等の研究の基礎についてご指導いただきました岩

田 洋講師、インプラント診療センターの先生方には大変お世話になりました。この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。また、本受賞を励みとし、今後の研究活動に励んでいきたいと思っております。



堀 紀雄
神奈川歯科大学
顎口腔機能修復科学講座
クラウンブリッジ補綴学分野

論文名「自然放置下におけるチタン表面の化学性状の変化がタンパク吸着能および細胞接着能に及ぼす影響」

この度は、平成22年度日本口腔インプラント学会奨励論文賞を受賞させて頂きありがとうございました。御選考頂きました諸先生方に心より感謝申し上げます。

本研究は、チタンの新たな特性として発見されたチタンの時間依存的特性変化「チタンエイジング現象」が生物学的応答に影響を与えることを示したものであります。現在までインプラント材料であるチタンの表面特性は、安定で変わらないものとされ、生体不活性材料として取り扱われてきました。しかしながら、チタンの表面は機械研磨や酸処理などの表面処理が行われた直後は、超親水性の状態を示しており、生物学的応答としてのタンパク吸着能力も非常に高いことが本実験で確認されました。また、表面を加工してから4週間保管し、同様の実験を行ったところ、表面の濡れは疎水性へと変化し、タンパク吸着能力も、加工直後の新鮮面と比較し約3分の1にまで減少していることが分かりました。そして、その原因の一つとして表面化学的变化が見出され、加工直後新鮮面ではほとんど認められなかった炭素原子を含んだいわゆる炭化水素の付着が、表面加工後4週間保管されたものでは増加していることを本論文にて報告させていただきました。

今回の報告から推測されることは、表面形状が同じであったとしても、表面加工後からの時間経過によって、表面の濡れや生物学的応答にまで

影響を及ぼす可能性があるということです。現在、インプラントの適応拡大や治療期間の短縮を目的に様々な表面改良の研究が行われていますが、チタンの本来持っている能力を最大限引き出すためには、表面改良のみだけでなく、表面をどのような状態で使用するかということが今後重要となってくる可能性があります。今回の報告は、チタンの材料的定義も変わる可能性がある報告であると思われます。すなわち、チタン表面加工直後の状態では非常に高い活性を持っているため、生体活性材料となりうる可能性も考えられるからであります。

今後インプラント治療の更なる発展のためには、このチタンエイジング現象の詳細を明らかにしていくのと同時に、解決方法が必要となると考えています。その解決方法の一つとして、我々は光テクノロジーを応用した光機能化を現在検討しています。

最後に研究に際しまして終始懇切なる御指導賜りました University of California, Los Angeles (UCLA) 歯学部 小川隆広准教授、本学クラウンブリッジ補綴学分野木本克彦教授をはじめ諸先生方に心より御礼申し上げます。



吉田 有里
徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面補綴学分野

論文名「小照射野歯科用 CT 撮影における画像測定精度の検討」

この度、平成 22 年度（社）日本口腔インプラント学会奨励論文賞を受賞させていただき、まことに光栄であり、心より感謝を申し上げます。

本研究は、近年インプラント治療における画像診断において注目されている小照射野歯科用 CT 撮影での画像測定精度について調査したものです。小照射野歯科用 CT 撮影では、①画像測定時に、水平方向と垂直方向で誤差の大きさが異なること、②水平方向での測定時にはインプラントの埋入位置や埋入パターンの影響を受けること、③垂直方向の測定時にはインプラント埋入位置・パ

ターンの影響を受けず、エックス線高吸収物質が実長より長くなり、下顎管とインプラント先端の距離測定で過小評価となることを明らかにしました。被ばく線量に関しても、医科用 CT とは異なる性質を有することをこれまでに報告しております。小照射野歯科用 CT 装置の有用性は高いと考えられますが、このようにさまざまな条件によって被ばく線量分布および画像測定精度が変化することが明らかとなりました。今後は最適な撮影条件を考案し、インプラント治療のガイドライン作成に役立てる研究活動が必要と考えております。

最後に、ご選考いただいた諸先生方には改めて深謝いたします。また研究に際して終始懇篤なご指導・ご鞭撻をいただいた本学歯科放射線学分野 菅田栄一教授、ならびに本研究の機会を与えてくださり、ご指導・ご高閲を賜りました本学口腔顎顔面補綴学分野市川哲雄教授をはじめとする諸先生方に心より厚くお礼申し上げます。

優秀研究発表賞



十河 基文
大阪大学歯学部
株式会社アイキャット

演題名「インプラント治療における「臨床的骨質診断」の検討—医科用 CT、歯科用 CT における CT 値の信頼性について—」

この度、名誉ある「学会優秀研究発表賞」を賜りたいへん光栄至極に存じます。

概略：今回の発表は、術前診査の 1 つである CT 撮影における「CT 画像の濃度値」に関する研究です。医科用 CT3 機種と歯科用 CT8 機種の画像濃度値の検証を行い、さらに大型放射光施設 SP-ring8 にて CT 値を求めました。また、歯科用 CT の画像濃度値が濃度直線性と濃度絶対性を示せば同値を CT 値に変換し、その後、医科用 CT、歯科用 CT に関わらず仮に設定された「絶対的 CT 値」に一元化するアルゴリズムを適応す

ることで、「絶対的 CT 値」の提唱を行いました。

詳細：医科用 CT の白黒画像の濃度値は CT 値（ハンスフィールド値）と呼ばれ、「骨密度」すなわち「臨床的骨質診断」の指標に利用できます。しかし、「体格に応じて管電圧を変化させた場合、同じ CT 値を示すのか?」、「同じ列数の医科用 CT であれば全て同じ CT 値を示すのか?」、「最近注目されている歯科用 CT の画像濃度値は医科用 CT の CT 値とどう違うのか?」、さらには「単色 X 線によって CT 値はどのような値になるのか?」などの疑問を解決するために実験を行いました。

結果、「同じ CT 装置でも管電圧が変化すると CT 値は異なること。」「標準的な体格に用いる管電圧で同じ列数の CT 装置であっても、メーカーが異なれば CT 値は異なること（図 1）。」が、わかりました。また、8 機種種の歯科用 CT のうち 5 機種種の画像濃度値が医科用 CT とは異なり「濃度直線性」や「濃度絶対性」を示さないことがわかりました。さらに、SP-ring8 においてビームハードニングを起こさない単色 X 線により X 線吸収係数を計測し CT 値を求め、60KeV の光子

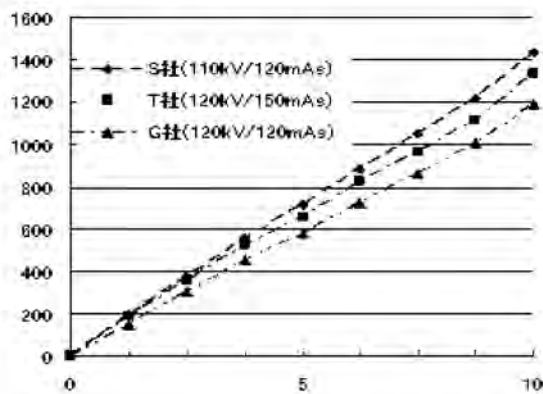


図 1

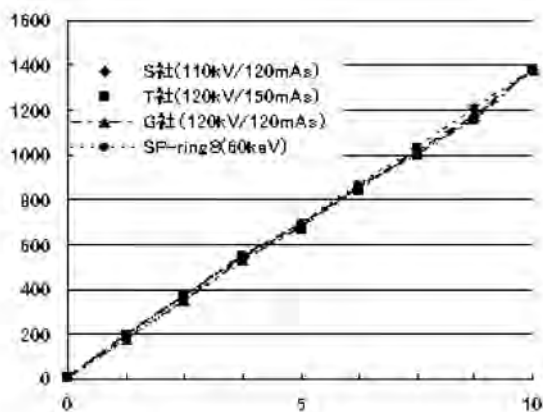


図 2

エネルギーにおける CT 値を仮に真の「絶対的な CT 値」に設定しました。そして、濃度直線性、濃度絶対性を示す歯科用 CT に対して画像濃度値を CT 値に変換するアルゴリズムを適応し、さらに歯科用 CT、医科用 CT を問わず「絶対的な CT 値」へ変換するアルゴリズムを適応することで（図 2）、機種にかかわらず真の「絶対的な CT 値」を見出させる可能性を導きました。

最後に：恥ずかしながら、筆者は放射線の専門家ではありません。しかし、インプラントの臨床的な視点からブラックボックスでわかりにくい CT について今後も研究を続けていきたいと思っています。



野阪 泰弘

野阪口腔外科クリニック

演題名「インプラント予定患者における抜歯窩の軟組織形成について」

この度は、平成 22 年度学会優秀研究発表賞を賜りまして誠にありがとうございました。ご選考いただきました諸先生方および会員の先生方に、深く感謝申し上げます。

演題名は「インプラント予定患者における抜歯窩の軟組織形成について」で、非常に地味な臨床研究であったため、まさか受賞するとは思いませんでした。安全なインプラント治療を目指す本学会の姿勢に合致したことが、ご評価いただいた理由と思っております。

発表の主旨は、抜歯後 6 カ月以上経過しても抜歯窩が骨性治癒するとは限らないということでした。抜歯後 6 カ月以上経過したインプラント予定患者 322 例について、歯科用コーンビーム CT（3DX，モリタ製作所）で抜歯窩を評価しました。結果は、322 例中、26 例（8.1%）に抜歯窩に X 線透過像が認められ、病理組織学的には線維性治癒や腐骨形成と診断されました。線維性治癒の症例では、歯槽頂の皮質骨部に限局性の

骨欠損が存在し、下方の海綿骨部にアリの巣状を呈するX線透過像が観察されるという特徴的なCT画像がみられました。しかし、すべての症例において、デンタルやパノラマX線写真によって線維性治癒を的確に診断することは困難でした。一方、腐骨形成症例では遊離したX線不透過物が抜歯窩に存在し、X線不透過物の周囲にX線透過像が認められました。

抜歯窩に軟組織が形成される原因としては、抜歯時に存在していた慢性の歯槽骨炎が考えられました。しかし、抜歯窩に軟組織が形成されるか否かを、抜歯時に予測することは困難と考えられます。したがって、安全で確実なインプラント治療のためには、抜歯後6カ月に歯科用コーンビームCTを用いて抜歯窩を診断することが重要と思われました。

近年、抜歯後即時埋入やソケットプリザーベーションなど、インプラントの治療期間を短縮させる術式が盛んに行われるようになってきました。しかし、両術式は抜歯窩が骨性治癒することを前提としているため、本臨床研究の結果から両術式の約8%に骨形成不良というトラブルを生じる可能性が示唆されました。

インプラントは体の反応を利用した治療で、未知の領域が数多く残されています。本臨床研究が、安全で確実なインプラント治療に寄与すれば幸いです。



山田 将博
東京歯科大学
有床義歯補綴学講座

演題名「骨形成促進因子として新たに発見されたアミノ酸誘導体」

この度は、平成22年度学会優秀研究発表賞を賜り大変光栄に存じ、心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました諸先生方、会員の先生方には改めて深謝いたします。今回は「骨形成促進因子として新たに発見されたアミノ酸誘導

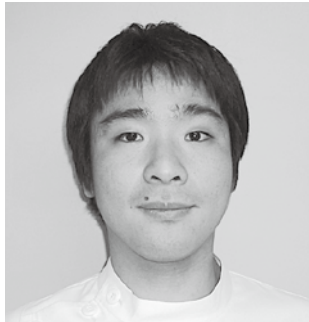
体」という演題名で発表させていただきました。

インプラント埋入部位顎骨の十分な量と適切な質はインプラント治療の適応拡大、成功率の向上と長期予知性に寄与します。しかし、歯牙欠損部歯槽骨のほとんどが量的、質的、形態的な喪失状態を呈します。そのため、安全で、効果的な骨再生技術やマテリアルの開発が求められています。その中で、骨形成促進因子の応用が検討されています。現在、骨形成タンパク質（BMPs）をはじめとした様々なリコンビナント成長因子の応用が注目されています。それら成長因子は動物実験的、臨床研究的に骨再生を促進することが示されています。しかし、重篤な副作用を示す可能性や非常に高価であるなど、歯科医療における骨再生術への応用に際して、解決すべき問題が未だ存在しています。

今回、私はある抗酸化アミノ酸誘導体（AAD）が骨芽細胞の骨再生機能を遺伝子レベルで飛躍的に向上させることを示しました。ラット大腿骨を用いた大規模骨欠損モデルおよび垂直的骨造成モデルにおいて、AAD含浸コラーゲンスポンジの応用により、骨治癒の速度や骨再生量が向上しました。また、ヒト骨芽細胞においてもその骨形成促進効果を実証いたしました。AADは、気管支炎などの治療薬の成分として既に臨床応用されているアミノ酸であり、その安全性は確認されています。比較的廉価で応用可能です。また、単純な小分子化合物であるため、製品として製造販売した際、その品質管理は比較的容易であることも推察されます。驚くべきことに、AADは毒性的物質の解毒や抗菌性、抗炎症能といった骨再生を有利に導く他の機能も有することが示唆されています。この点に関しては、現在鋭意研究を進めております。

今回受賞させていただきましたことを励みに、研究成果を一日でも早く臨床へ応用できるように更なる研究を重ね、インプラント治療のさらなる発展と国民の健康増進に少しでも寄与できるように研鑽を積んでいく所存でございます。最後に、本研究はアメリカUCLAワイントロープセンター骨・インプラント（LBIS）研究チーム主任・小川隆広准教授のご指導の下、LBISで共に働いた諸先生方の多大なご協力の結果であること、また、学会発表に際しては東京歯科大学有床義歯補綴学講座・櫻井 薫教授のご指導をいただいたことを加え、この場を借りて深く感謝申し上げます。そして、

本学会の諸先生の皆様には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



後藤 崇晴
徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面補綴学分野

演題名「アタッチメントの違いがインプラントオーバーデンチャー床下組織の負担圧に及ぼす影響」

この度は、平成 22 年度優秀研究発表賞を受賞させていただき、まことに光栄に存じます。選考委員の諸先生方に、心より感謝致します。

本研究は、下顎インプラントオーバーデンチャーに用いられるアタッチメントの違いが床下組織の負担圧に及ぼす影響を *in vitro* で検討したものであります。Mcgill コンセンサスで、下顎無歯顎補綴治療における第一選択であると提案されているインプラントオーバーデンチャーですが、義歯とインプラントを連結するアタッチメントの明確な選択基準、および臨床的に重要であると考えられる義歯とインプラントを連結する際のアタッチメントの装着方法に関しては、十分に明らかにされておられません。そこで、本研究では、3軸力覚センサを応用した実験装置ならびにボールアタッチメント、ドーム型の磁性アタッチメント、ロケータアタッチメントを用いて、アタッチメントの装着方法、荷重点に焦点を当てて研究を行いました。また、機能時の義歯の動揺を検討するために、臨床で義歯に取り付け可能な6軸モーションセンサを用いて、義歯の動揺も同時に測定しました。

その結果、インプラント体への側方力が最も小さくなる時の装着時の荷重ならびに荷重点は、それぞれのアタッチメントで異なっていました。各アタッチメントを使用する場合には、それぞれに応じた装着時の荷重付与や、荷重点、つまり咬合接触の調整を行うべきであると考えられました。また、3軸力覚センサの負担分布を6軸モーションセンサを用いた義歯の動揺から予測すること

が可能であり、インプラント体と義歯の両方にとって適切な負担分布の検査方法としての可能性が示されました。

今後は、アタッチメントの種類、および装着条件を更に詳細に検討し、アタッチメントの選択および装着方法の基準を確立していきたいと考えています。

最後に、本研究をご指導いただきました市川哲雄教授、永尾 寛准教授、友竹偉則講師、ならびにご協力いただきました当教室の諸先生方に深く感謝致します。

デンツプライ賞



長尾 大輔
徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面補綴学分野

演題名「骨芽細胞における持続的圧縮力により誘導された Hsp25 の機能解析」

この度は、第 39 回日本口腔インプラント学会デンツプライ賞を受賞させていただき、大変光栄なことであり、心より感謝しております。

本研究では、インプラント周囲骨の早期形成と維持に重要なメカニカルストレスに注目しました。マウス由来骨芽細胞様細胞 (MC3T3-E1) に、ガラスシリンダーにて直接細胞に圧縮力を加え培養を行い、DNA マイクロアレイ法にて圧縮力特異的に発現量が変化する遺伝子を検討し、その遺伝子がどのような働きをするのかを検討を行いました。その結果、分子シャペロンとして知られている Heat shock protein 25 (Hsp25) の mRNA、蛋白が圧縮力により誘導され、その発現誘導は、主に細胞外マトリクスであるインテグリンから MAP Kinase である MEK → ERK のシグナル伝達系が関与することが示されました。さらに圧縮力により発現誘導される Hsp25 を siRNA にて抑制すると、caspase 3 が活性化し、アポトーシスを誘導することが示されました。以上のことから、インテグ

リンが MC3T3-E1 細胞における圧縮力に対するメカノセンサーの 1 つであることが示唆されました。圧縮力により Hsp25 を誘導することにより、アポトーシスに対する抵抗性を獲得していることが考えられました。今後は、Hsp25 をメカニカルストレスの指標として、インプラント体周囲の骨形成に有用な荷重量を検討していく予定です。

最後に、研究に際し、終始ご指導、ご鞭撻いただいた市川哲雄教授、吉本勝彦教授、ならびに当教室の諸先生方に深く感謝申し上げます。



田村 直
北海道医療大学
大学院歯学研究科
口腔機能修復・再建学系
クラウンブリッジ・
インプラント補綴学分野

演題名「厳密な嫌気条件下におけるインプラント周囲溝の細菌叢」

この度は、第 39 回（社）日本口腔インプラント学会学術大会におきましてデンツプライ賞を受賞させていただき、大変光栄なことであり、心より感謝申し上げます。

本研究は、インプラント予後不良の原因の一つであり、今後も増加していくであろうと考えられるインプラント周囲炎について、細菌学的に検討したものです。進行したインプラント周囲炎に罹患した部分欠損患者に対し、そのインプラント周囲溝の深部環境における細菌叢を明らかにするため、健康なインプラント周囲組織を持つ患者 4 名と、臨床的にインプラント周囲炎であると診断した患者 8 名のインプラント周囲溝における細菌叢の比較検討を行ないました。被験部位を防湿、歯肉縁上プラークを可及的に除去した後、圧感知型ポケットプローブにてポケット測定を行い、その最深部から滅菌ペーパーポイントにて滲出液を採取しました。採取した試料中の細菌は、十分に管理された嫌気条件で取り扱い、培養法と分子生物学的手法を用いて細菌を同定しました。両者間の総菌数（CFU）と菌種分布比において大きな差がみられ、特にインプラント周囲炎部の細菌叢

で極めて多様な細菌種が認められました。両者間でグラム陽性球菌の割合に差は見られませんでした。健康なインプラント部ではグラム陰性球菌である Veillonella 属が優位であり、インプラント周囲炎部では、グラム陰性桿菌に属する Prevotella 属や、グラム陽性桿菌である Eubacterium 属が優位でした。以上の結果より、インプラント周囲炎に罹患したインプラント周囲溝底部は、糖非分解性かつ高度な偏性嫌気状態にあることが示唆されました。また、Eubacterium 属等の糖非分解性グラム陽性桿菌種（AAGPRs）の顕著な増加により、従来から示唆されている歯周病原細菌のみがインプラント周囲炎の発生と進行に関与しているのではなく、AAGPRs もまた重要な役割を担っていることが示唆されました。今後は検体数を増やし、種のレベルでの解析を進めることでインプラント周囲炎の細菌叢を解明し、効果的治療法を明らかにしていきたいと考えております。

最後に、本研究をご指導いただきました本学クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野越智守生教授、口腔微生物学分野中澤 太教授、宮川博史講師、個体差医療科学センター舞田健夫教授、ならびにご協力いただきました諸先生方に心より感謝申し上げます。



長澤麻沙子
新潟大学大学院
医歯学総合研究科
生体歯科補綴学分野

演題名「動物実験モデルを用いたオッセointegration崩壊機序の検索」

この度、平成 22 年度第 39 回日本口腔インプラント学会学術大会におきましてデンツプライ賞をいただきましたことを、大変光栄に思っております。また、御選考くださいました先生方、学会の皆様方には心より感謝申し上げます。今回、受賞させていただきました研究の題名は「動物実験モデルを用いたオッセointegration崩壊機序の検索」で

あり、私の学位研究の一部を発表致しました。

インプラントの成功率は90～95%といわれているにも関わらず、依然として原因不明の失敗があることも事実です。一度オッセオインテグレーションを獲得したインプラントが機能開始後に脱落することがありますが、インプラントにかかる力がこの原因になっているという直接的な証明はされていません。それは実験モデル構築の難しさに起因します。そこで本研究はラットを用いたインプラントの咬合モデルを確立すること、そして過大な咬合力を加えた時のインプラント周囲の骨の変化を詳細に観察し、オッセオインテグレーションの崩壊過程とメカニズムを解明することを目的としました。

臨床において、特にインプラントの世界では失敗に関してはあまり報告されず、その原因を追究することは稀です。インプラントは今や、患者様のQOLを向上させるための重要な手段の一つであり、インプラントをより長く快適に使用していただくためには、臨床で起こる現象の原因を解明する必要があります。私はこの研究を続けていくうちに、日々の臨床における疑問を、基礎研究を通じて解明することは、大学にいる臨床家の責務の1つだと感じるようになりました。基礎研究の手法を臨床家が取り入れることで、多くの研究成果を臨床に還元できる可能性があるからです。

今回いただきましたこの受賞を励みに、日々臨床・研究共に精進して参りたいと思っております。今後とも皆様のご指導のほど、よろしく願致します。

最後に、今回の受賞は、ご指導いただいております魚島勝美教授をはじめ、生体歯科補綴学分野の先生方、また研究をさせていただいております口腔解剖学分野の前田健康教授や教員の皆様のご指導の賜であると思っております。この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



井出 吉昭
日本歯科大学 生命歯学部
発生・再生医科学講座

演題名 「“Bony canine triangle” の形態学的検討」

この度は、名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただきありがとうございます。本学会のような由緒ある大きな学会で、受賞できたことを誠に光栄に感じております。

まず初めに、この賞をいただく機会をいただきました日本歯科大学生命歯学部歯科放射線学講座の代居 敬教授に感謝申し上げます。私は、一昨年まで代居教授が主宰されております歯科放射線学講座で、「インプラント患者の術前の画像診断」を担当させていただきました。そこで多くの症例の診断をすることができ、エックス線画像を通しての骨の形態解析の面白さに触れることができました。本研究は、インプラントの術前診断をしているうちに明らかにしたいと思ったテーマです。

本研究は、インプラント患者の術前CTデータを基に上顎の犬歯部領域の骨形態を検討した報告です。上顎の犬歯部領域は、歯の喪失後も十分な骨量が存在することから、インプラントの埋入部位としてよく利用されますが、この部位の形態学的な検討を行った報告は、過去に私が知る限りではありませんでした。報告が今までになされなかった理由は、この部位の形態計測が非常に困難であったためだと思います。そのため、本研究を行うにあたり検討方法について非常に悩まされました。しかし、私にとって苦労した分、思い入れのある研究になりました。本研究を行ったことにより、①前鼻棘より上方の骨は歯が喪失しても骨量の減少は見られないこと、②犬歯部領域の後方の傾斜埋入を行う起始点（上顎洞底の前方部）は第二小臼歯部が多いこと等を統計学的に示すことができました。これらの結果は、微力ではありますが、エビデンスに基づく安全なインプラント治療を行う上で有益な基礎データであるのではないかと考えております。

最後に、本研究は代居 敬教授をはじめ、懇切なるご助言を賜りました本学附属病院インプラント診療センターの高森 等教授、岩田 洋講師、一緒に研究を行った山田麻衣子助教、また、その他インプラント診療センターの多くの先生方のご協力のおかげで行うことができました。皆様に心より感謝申し上げます。

第6回 口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会 開催報告

教育委員会 廣安 一彦

公益社団法人へ移行して初めての口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会が、平成22年11月27,28日に名古屋国際センターにて開催されました。第6回である今回は初の中中部地区での講習会であり、担当は朝日大学口腔病態医療学講座インプラント学分野（永原國央教授）で開催致しました。今回の参加者は82名、テーマは前回までと同様「適切な診断および安全・安心なインプラント外科埋入手術」とし、講師としては嶋田 淳先生（明海大学口腔顎顔面外科分野1）、松浦正朗先生（福岡歯科大学口腔インプラント学分野）、菅井敏郎先生（東京医科歯科大学、東京都開業）、井出吉信先生（東京歯科大学解剖学教室）、代居 敬先生（日本歯科大学歯科放射線学講座）、関根浄治先生（島根大学歯科口腔外科学講座）、若松陽子先生（関西大学法務研究科）の7名の先生方をお招き致しました。

それでは実際の講習会の流れに沿って、その内容について報告していきます。

11月27日（土）

13:00～13:30 名古屋国際センター集合、受付。受講者の中には、11時30分位には受付をされる非常に熱心な先生も数名いらっしゃいました。（写真：会場風景）

13:30～ 開講式：総合司会は今までと同じで、私が務めさせていただきました。まず最初に教育委員会を代表し、松浦正朗副委員長より挨拶を頂き、注意事項や連絡事項を通達後、江



会場風景

藤隆徳先生（大阪歯科大学）の座長のもと、講習会が開始されました。

13:40～14:40 嶋田 淳先生「サイナスリフトー注意点と合併症ー」

嶋田先生は、ご自分の今までのサイナスリフトの手法についてその変遷とリフティングドリルを用いる方法など、現在行っている方法について動画等を交え、わかりやすく解説して頂きました。また周術期の口腔内清掃の重要性、また術前術後の抗生剤の投与の必要性から術中の出血、術後感染にいたるサイナスリフトにかかわるトラブルについてもわかりやすく解説していただきました。

14:40～16:10 松浦正朗先生「インプラント治療の診断の基準と手術計画」

松浦先生は、インプラント治療のなかでも手術計画を立案する際に必要な検査項目とそれを基にした診断について解説して頂きました。特にAdvanceやComplexに分類されるような複雑な手技を必要とする手術を計画実行するには、術者の手技の確実性も必要ではあるが、やはり詳細な診察と画像診断が不可欠であると解説されました。

途中液晶プロジェクターの不具合により、中断し調整を行った関係で、予定時間を繰り下げる事としました。

16:10～16:20 コーヒーブレイク 予算の都合上コーヒーは出ませんでした。各自でつかの間の休憩を取って頂きました。

16:20～17:20 菅井敏郎先生「SAC



質疑講師陣



懇親会：理事長あいさつ



質疑応答

Classification に基づいた症例の難易度—外科的側面から見た難易度分類—

菅井先生は、インプラント治療を行うにあたり合併症を避けるための1つの手法としてSAC分類の活用について症例を交えながら講演して頂きました。特に外科的手技を中心としてお話をされましたが、まず術者自身の診断能力・経験・技術を客観的に評価することが必要であり、術者のレベルを超えた経験のない手術は安易に行うべきではないと話されていました。

17：20～18：20 井出吉信先生「インプラント知っておきたい解剖学」

井出先生は、インプラント関連手術を行う際に重要とされる顎骨周囲の解剖に焦点を絞り、わかりやすく解説されました。特に歯の喪失に伴う上下顎骨の特徴的な形態変化、顎骨周囲の筋・脈管・神経の走行変化は重要であり、一例として下顎骨内面舌下部を走行する舌動脈・舌神経は下顎骨との相対的位置変化により歯槽頂付近を走行するため脈管・神経損傷に注意が必要であると話されていました。

18：20～19：00 全体ディスカッション

嶋田先生はご都合により退席されましたが、松浦先生、菅井先生、井出先生、代居先生に壇上が上がってもらい、全体ディスカッションを行いました。会場からは、解剖に関する質問や術前診断について質疑応答が行われました。(写真：質疑講師陣)

19：30～21：00 懇親会 名古屋国際センター内 東天紅

1日目の講演がすべて終了し、最後のプログラムである懇親会が名古屋国際センタービル 25F

にある東天紅で行われました。まず最初に川添理事長よりこの講習会の意義と今後の展望についてお話を頂きました(写真：懇親会)。次いで今回の講習会をサポートして頂いた朝日大学 永原先生より挨拶を頂き、受講者を代表し浜松医科大学 橋本賢二先生の乾杯の音頭で開宴となりました。演者の先生方にはそれぞれ分かれて円卓について頂き、出席者の先生方との直のディスカッションが行われていたり、出席者同士の友好を深めたりされていました。

11月28日(日)

8：45～9：15 名古屋国際センター集合、受付。

9：15～10：15 代居 敬先生「インプラント埋入手術術前エックス線診断基準」

2日目は加藤仁夫先生(日本大学松戸歯学部)の座長により開始されました。

代居先生は、インプラント埋入手術術前エックス線診断としてデンタル、パノラマ、医科用CT、CBCTの各撮影についてその検査時期、そしてその画像の観察要点について講演されました。パノラマだけでは診断できず、CTにより異常所見が認められた例などを挙げられ、わかりやすく話していただきました。また、最近ではCBCTの普及もあり、医科用CTとCBCTとの利点、欠点についても話されました。

10：15～11：15 関根浄治先生「インプラント外科手術を行ううえでの全身管理」

関根先生は、インプラント治療を行ううえで必要な全身管理について講演されました。最近のBP製剤による顎骨壊死についても話され、特に周術期の口腔衛生管理が重要だと述べられていま

した。また術前からの抗生剤投与の意義と栄養および免疫状態の改善のための immunonutrition についても幅広くお話をさせていただきました。

11:15～11:45 全体ディスカッション

全体ディスカッションとして、松浦先生、菅井先生、代居先生、関根先生の4名に登壇していただき会場からの質疑応答を行いました（写真：質疑会場）。医科用CTとCBCTとの使い分けであるとか immunonutrition についての質問等が出て、積極的な質疑応答がなされました。

11:45～12:40 昼食

昼食は永原先生の選択で、名古屋名物（手羽先、味噌かつ、エビフライ、天むす、ういろうなど）といわれるもので、味噌煮込みうどん以外が入っているボリューム満点のお弁当を頂きました。

12:40～13:40 若松陽子先生「インプラント治療に関わる医療問題」

若松先生は、現状での医療訴訟、特に歯科に關しての医療裁判についての発生からその経過等についてわかりやすく講演をしていただきました。紛争になった場合には、物的証拠のみならず、スタッフからの証言などの人的証拠も有効となるた

め、普段から意思疎通を心がける必要があるとのことでした。

13:40～14:00 認定委員会からの説明

永原先生が認定委員会を代表し、本講習会の単位の取り扱い、専門医取得、更新についての説明をされました。

14:00～ 修了式

2日間の講習会を終えて、永原先生より挨拶を頂き、修了証の授与に移りました。司会の私が受講者1名ずつお名前を呼び、前に出てきてもらい、永原先生より修了証を手渡し、各自解散となりました。

受講者の皆様大変お疲れ様でした。また準備をしていただいた永原先生はじめ朝日大学のスタッフの皆様ご苦労様でした。過去全ての講習会に参加されている大変熱心な先生（私もそうですが）も数名おられ、また次回の講習会でお会いするのを楽しみにしております。

まだ参加されたことのない先生は、2日間かんづめ状態でかなりハードだとは思いますが、必ず多くの知見が得られることは間違いありません。是非時間を作ってください、次回からの参加をお願いいたします。

専門歯科技工士委員会からの情報 「インプラント専門歯科技工士制度のご案内 & 最近のトピックス」

専門歯科技工士委員会 木村 健二

本学会が認定するインプラント専門歯科技工士制度は、口腔インプラントに関する歯科技工学の専門的知識および臨床技能・経験を通し、歯科技工士の口腔インプラントに対する専門的知識と技術を研鑽するとともに、口腔インプラント学の発展及び向上を図り、もって国民の口腔保健の増進に貢献することを目的とし、平成19年に制定されました。

暫定期間の申請も終わり、平成22年度の試験は平成23年1月16日に、小論文形式の筆記試験ならびに症例報告に対する口述試験によって行われました。これまでの専門歯科技工士数はのべ315名で、歯科技工士会員の約63%にあたりま

す。

インプラント専門歯科技工士の資格の申請時には以下の条件を満たしていることが必要となります。

- * 日本国歯科技工士の免許証を有すること
- * 2年以上継続して正会員であること
- * 3年以上インプラント上部構造の技工に携わっていること
- * 正会員として本会学術大会及び支部学術大会に各1回以上参加していること
- * 正会員としてインプラント専門歯科技工士教育講座を2回以上受講していること
- * インプラント上部構造の製作を行った経験が10症例以上あること

*口腔インプラント専門医2名の推薦があること
また、資格取得後も5年ごとに更新を受ける必要があります。詳しくは日本口腔インプラント学会のHP <http://www.shika-implant.org/> からご覧いただけます。

歯科業界を取り巻く環境がすさまじい勢いで進化するなかで、インプラント専門歯科技工士の果たす役割は大きなものとなりつつあります。とりわけ、CAD/CAMシステムによってCT撮影時のステントや手術支援のためのサージカルガイドの製作が可能となり、チェアサイド、ラボサイド双方の連携による包括的なインプラント治療が進み、患者にとって、より安全な設計を提供できることになってきました。今後ますますインプラント治療に対する信頼性が高まっていくことでしょう。これからは歯科技工士もCTデータから得られるシミュレーション操作によって最終補綴物のデザインから考えられる最良のフィクスチャー埋入位置、上部構造の設計、使用材料等に対する提案を積極的に行っていく必要があります。そのため、インプラント技工に携わる歯科技工士全体の技術の向上と知識の研鑽が必要になってきます。平成24年度もインプラント専門歯科技工士試験の受付を行う予定ですので、インプラント技工に関わる歯科技工士の皆様の申請をお待ちしております。

【最近のトピックス】

さて、歯冠補綴の素材についてこれまでの変遷を振り返ると、メタル、硬質レジンに始まり、ポーセレン、ハイブリッドセラミックス、ニケイ酸リチウムセラミックス、ジルコニア等、様々な材料が開発されてきました。しかし、インプラント上部構造の素材として考えると、それぞれの材料に特性があり、すべての症例に万能な材料という

のは存在していません。そのようななかで、ジルコニアを単体で生かす試みが近年行われており、インプラント上部構造の素材選択の一つとして今後需要の高まりが期待されています。単体のジルコニアは白色を有するため金属よりも天然歯に近い見た目にはなりますが、天然歯の持つ自然な透明感やグラデーションまでは表現することはできません。しかし、審美性よりも機能性や強度を優先していく必要がある場合には有効な補綴設計となり得ます。

最近、ジルコニアフルアナトミカルクラウンという新しいコンセプトが誕生しました。強い咬合力やブラキシズムなどを有する破折リスクの高い患者への補綴設計としても利用可能な、高強度で、ある程度の審美性を有する補綴物として開発されたものです。これまでのジルコニアは白色で明度が非常に高いものでしたが、本製品は従来よりも透明度を高めることで結果明度が低くなり、若干ではありますが白色ジルコニアよりも天然歯に調和しやすいものとなっています。強度を生かした長期的な機能安定と、ジルコニアの持つ白い歯という大きな優位条件を活かした設計は、今後確実に需要が高まってくるのではないのでしょうか。

先頃、ジルコニアについての最新の潮流が体系的に纏め上げられた歯科技工別冊「ジルコニアレストレーション」(医歯薬出版株式会社)が発売されました。ジルコニアが国内で認可されて5年以上が経過し、臨床応用も広く定着してきました。ジルコニアの理工学的な特性、技工操作、ケースプレゼンテーションに至るまで、ジルコニアを知るためには最適の内容であると思われます。ぜひ、皆様にお薦めしたい一冊です。

平成22年度ケースプレゼンテーション試験合格者

宮澤 進,	柳本惣市,	北爪孝昌,	鳥居正雄,	中西 一,	小林 良,	山本啓太郎,	脇田智文,
湊 勇人,	井畑信彦,	森本敬太,	安部貴之,	宮田幹郎,	松岡伸輔,	橋爪 章,	松橋智史,
西田哲也,	富山雅史,	加藤 宙,	堀内克啓,	柳澤邦博,	大橋 功,	石井将之,	鬼原英道,
岡田秀一,	笛木 貴,	秋月一城,	加藤勇夫,	村上 智,	堀本真二,	井上一彦,	野々山和弘,
須田善行,	中川威彦,	佐藤文明,	高橋純一,	松浦宏彰,	岡田一介,	井堂信二郎,	渡邊隆彦,
山口将日,	柴垣博一,	岩田祥一郎,	湯浅慶一郎,	土井知二,	谷口哲也,	佐藤美穂子,	張簡敬哲,
渡辺禎久,	柳谷博章,	細野拓生,	松尾徹也,	神岡 徹,	水口稔之,	西村浩司,	杉崎正規,

木村匡司,	福富健介,	馬場俊輔,	西村有祐,	林 秀樹,	渡辺泰典,	成之坊昌功,	福谷能史,
内藤早苗,	過能博之,	浜地宏哉,	南 唯廣,	山田浩之,	北原 晋,	篠原俊郎,	鎌田幸治,
金子泰英,	田中かずさ,	竹田智郎,	江戸馨一,	赤羽康彦,	唐木俊英,	和田誠大,	池邊一典,
坂本好司,	堤 豊重,	新田茂夫,	磯田幸盛,	瀧谷佳晃,	長井康平,	神野洋平,	桑原明彦,
早川安光,	権田知也,	三宅高弘,	川瀬 敬,	田口達夫,	鳥居紗和子,	井澤篤義,	重松正仁,
武井賢郎,	高木幸人,	三嶋直之,	西松成器,	中島和敏,	寺前智人,	佐藤大輔,	金井 亨,
足立哲也,	竹林さやか,	松本秀樹,	小峰 太,	田崎純一,	木村和代,	五十嵐隆,	草野 薫,
松崎文頼,	志村俊一,	谷岡款相,	林 哲平,	櫻井 甫,	山口恭誉,	山田潤一,	吉田 健,
渡辺和泉,	林 保利,	田端和高,	松本弘幸,	加倉加恵,	河津千尋,	荻原光貴,	関 威夫,
伊藤明彦,	加藤大輔,	伊藤光安,	佐藤暢也,	深田健治,	松本敏光,	内藤義久,	中嶋 顕,
佐藤洋司,	仁木繁憲,	大西吉之,	熊谷雅毅,	津野宏彰,	寺本祐二,	楠本直樹,	久保隆靖,
松田慎一郎,	寺浦康夫,	生木俊輔,	小北一成,	萩原 眞,	鈴木 晃,	山内 洋,	久保倉弘孝,
藤田悟朗,	黒木克哉,	山村昌弘,	深瀬公彦,	稲垣智浩,	岸本幸康,	松田博文,	岡本耕造,
小川尊明,	真部寛登,	濱川知也,	西村隆久,	永尾光治,	壽永旭博,	牧野路子,	友枝 圭,
高橋究理,	榊原康智,	奥寺俊允,	大島正充,	丸山俊正,	足立和貴,	白石龍太郎,	伊東佑記,
安岡沙織,	寺西真理,	山口葉子,	栗田英樹,	赤崎洋介,	村嶋勇飛,	寺田征彦,	高野裕史,
吉仲正記,	沢木康一,	今富収治,	伊藤太一,	中村雅彦			以上 193 名
角倉 毅,	津田宏尚,	篠原光代,	寺崎恵太郎,				

新入会者紹介

(平成 22 年 6 月 1 日～平成 22 年 12 月 27 日)

▼東北・北海道支部

(北海道)	飯沼陽子,	沖田美千子,	苔口小百合,
箕輪和行,	鈴木美穂,	佐々木綾,	平石愛実,
和田麻希,	伏見詩音,	南 謙二,	井上裕之,
小山静香,	根岸昌弘,	塚本剛之,	坂本純一,
中川貴裕,	井田有亮,	池田達哉,	植村東植,
日向奈津樹,	舟生明日美,	久保木芳徳,	上田修平,
古橋一憲,	妹尾尚子,	庄司知世,	喜田真優子,
山本 舞,	鳥井優樹,	中里 紘	
(青森県)	川村順子		
(岩手県)	照井麻理恵,	小岩竜太郎,	佐々木成弘
(宮城県)	山谷立憲,	石崎里沙,	齋藤慶介
(秋田県)	山本 修,	桑島精一,	及川瑛明
岡根 路,	佐々木いつき,	永井 毅,	山崎知美
(山形県)	隠明寺亮,	浅野 智,	飯野光喜
(福島県)	常盤賢市		

▼関東・甲信越支部

(茨城県)	米川一弘,	松尾裕之,	三木友紀,
新井政人,	石橋直美,	上野健太郎,	山田啓子,
保坂栄勇			
(埼玉県)	長谷川晶,	石川侑孝,	代田和彦,
浅井佑介,	高梨紘子,	井村光宏,	中嶋隆二,
養田勝秀,	山本将之,	昆 裕司,	岡田尚輝,
山口正貴,	前堂明日香,	中島 舞,	八島貴世,

矢作順子,	畑中陽介,	小林美穂,	中村麻友美,
吉澤正隆,	根津雅彦,	森 雄亮	
(千葉県)	松浦 姫,	柳田篤史,	河野 出,
大八木章好,	石橋弘行,	市之川和広,	成島順子,
小船和弘,	朝日大輔,	島 秀仁,	谷中法子,
鈴木 豪,	小川初美,	鈴木静夏,	河相安彦,
洪 栄杰,	亀井秀一郎,	下里麻美,	間瀬慎一郎
(東京都)	田中健久,	辻絵理子,	長崎正継,
浜田勇人,	高橋那奈,	井上豊和,	福本千枝子,
仲井孝之,	赤澤洋佑,	太田淳也,	福光 誠,
斉藤秋人,	塚本 光,	番家政香,	大久保将哉,
大山雅史,	小野雅洋,	太田広宣,	竹内玲奈,
稲垣翔一,	喜地直美,	幕内俊介,	阿部敏高,
大畑愛子,	小池輝明,	増田勝実,	河合ちえみ,
竹本華子,	金子裕治,	竹内沙和子,	岩泉理沙,
秋山智人,	松本光史,	井上 全,	福永志津香,
篠塚未奈,	木内麻夕子,	瀧谷豊隆,	坪井佐知,
古賀正晴,	奥瀬敏之,	立花宗紀,	清水浩一,
菅井一夫,	古川明彦,	秋重成孝,	秋重由美子,
栗原祐史,	岩崎弘明,	神田重信,	淵上 慧,
小山千春,	米山勇哉,	大月涼森,	矢島 麗,
谷口陽一,	竹内拓美,	上田聡士,	木村新之介,
佐藤道子,	丸山緑子,	伊藤幸代,	日野峻輔,
毛利啓銘,	鈴木葉月,	川名部大,	寒川 啓,

- 岡部俊一, 浅野勝一, 増田 貴, 滝井晶子, 太田泰斗, 農端健輔, 綿本隆生, 井奥雄介,
 (神奈川県) 小澤知倫, 岡本政道, 白石 文, 堂本明男, 中塚里奈, 華岡シノブ, 松本尚之,
 山下慶浩, 市川貴康, 稲吉貴之, 久留島悠子, 欽竹順子, 樺澤 行, 吳 沢哲,
 喜地慶雅, 長井陽一, 林 明美, 武田和大, 榎本明史, 畑山敬秀, 山中章代
 漆原 優, 川原恵里, 室木貴行, 河野健太郎, (兵庫県) 吉田幸司, 富久賢哉, 前田麻樹,
 片桐ひとみ, 井坂太郎, 脇谷枝里子, 安保響子, 頭司雄介, 山崎裕隆, 小泉達哉, 財満千晶,
 松田梨沙, 洪 英順, 佐々木知史, 長谷川良介, 船曳建次, 飴谷彰洋, 白川隆之, 黒下泰宏,
 富川 尚, 長内紗和子, 岩田耕太郎, 大野真未, 高橋一彰, 本多忠之, 張 毓仁, 白瀬 優,
 土肥健二, 井上 理, 世良田紀幸, 竹内康雄, 橋本剛志, 木田啓章, 佟 元臣, 笹山晃佑,
 高橋 瞳, 林久美子, 丸山由香利, 本田真理, 福島健嗣, 幡中大吉, 芳田倫子
 武藤亮治, 秋本広太, 齋藤匡布, (奈良県) 富森輝郎, 浦田智久, 鎌田健一,
 (新潟県) 加来 賢, 瀬下博嗣, 池田博康, 有山佳伸, 大城庸嘉, (和歌山県) 山本晋平, 藤原修志, 岡本あおい
 野澤恩美, 五十嵐隆一, 北川哲太郎, 庭山圭司, ▼中国・四国支部
 (岡山県) 仲村陽平, 細川美鶴, 友成隆之,
 大島 丈 (長野県) 内田英樹, 中澤高志, 黒岩博子, (岡山県) 西村綾乃, 大坂浩之, 武居紀之, 平田基弘
 ▼中部支部 (岐阜県) 土井 豊, 門中貴義, 濱 享晃, (広島県) 岡田武久, 川添祐亮, 梶原志穂,
 恒川祥久, 尾上一平, 廣田和之, 東 博元, 後藤志津子, 峯 裕一, 前田耕作, 清原真太郎,
 東康加, 上田裕康, 阿部馨三, 大埜間勉, (山口県) 川希好美, 賀美 敬, 森脇弘章,
 田口 愛 (静岡県) 小嶋隆三, 八木元彦, 矢田 誠, 菅 北斗, (徳島県) 宇都宮靖士, 水頭英樹, 山本修史,
 市川絵美, 大畑和樹, 末延慎司, 望月研司, (香川県) 川上清一, 池田耕士, 植松勇介
 (愛知県) 松原弘記, 加藤一樹, 近藤英仁, (愛媛県) 東山哲也, 藤田陽平, 藤松大輔,
 高瀬直樹, 松村勇佑, 小林謙介, 神谷祐二, (高知県) 立本行宏, 宮部和典, 花新発太郎,
 木下篤敬, 野島 卓, 波多野裕子, 長澤正典, 蟹谷英生, 川田義雄, 片山元美
 尾関 愛, 竹内伸一, 戸田圭美, 西尾佳江, ▼九州支部
 牧 宏行, 青木佑介, 尾関準一, 伊藤真吾, (福岡県) 浦川 剛, 河原昌二, 飯塚俊雄,
 石原茂人, 板倉いづみ, 興梠末希, 蟹江俊郎, 古川和洋, 神崎高德, 篠原義憲, 高 杰,
 増田祐里, 杉浦俊彦, 宮嶋あずさ, 宮脇利明, 甲斐由梨奈, 松本隆史, 岩下隼人, 七熊幸紀,
 松岡永治, 島田健一郎, 中根敏盛, 榊原 亨, 平岡 隆, 大塚寛文, 秋岡栄一郎, 中島泰輔,
 松田 彩, 林 和宏, 林 高子, 石黒とも子, 久保慶朗, 尾崎周也, 下條 幸, 王 東江,
 小寺晃雄 (三重県) 葛島康平, 渡部浩司, 渡部信義, 岡村昭造, 矢田正宏, 出口恵理, 大東文和,
 (三重県) 富田 薫, 林 泰仁, 澁澤由里香, 木村圭介, 寺村由加利, 内山秀樹, 加藤一恵, 瓜生 正,
 中嶋正明, 久留沙和子, 高橋美之, 錦戸 浩, 牛島瑛久, 片岡良浩, 長尾 綾,
 ▼近畿・北陸支部 (石川県) 松木宏篤, (福井県) 飛田尚慶, 小野博子
 (滋賀県) 矢田孔太郎, 杉山輝久, 古田 紡, (長崎県) 林下富貴, 音山洋介, 副島太悟,
 (京都府) 鈴木宏宗, 角館直樹, 芳本 岳, (熊本県) 築城宏太郎, 森本大輔, 渡邊郁哉,
 濱之上恵, 山田直樹, 道上隆史, 福田知樹, 川崎真理, 渡邊美波, 村上智香, 井芹涼子,
 吉田豊克, 土谷裕男, 竹澤保政, 川崎真理, 荒川かすみ, 大塚沙織, 益田紗央,
 (大阪府) 森下雅三, 藤浪陽三, 山本与詞彦, 竹本梨恵, 渡邊幸俊, 川添由香, 米村加奈,
 菅波 透, 鈴木弘毅, 工藤彩加, 山下 彩, 長戸和子, 野村久美子, 石松勇志,
 春名 歩, 安里愛子, 森下陽介, 神戸 浩, 森谷智基実, (大分県) 田中由香, 佐藤誠士
 小河恵美, 吳本晃一, 坂口由佳, 小野隆司, (鹿児島県) 大山正暢
 稲葉陽二, 志賀 淳, 上中彰浩, 桜井保幸, (沖縄県) 丸山哲昇
 上原芳樹, 高橋明日香, 來田百代, 西川百合子, ▼外国
 枘田里加, 吉岡 崇, 長谷川昌徳, 大谷綾子, 姚 睿
 興村祐介, 瀬浦成憲, 寺田真也, 石垣恵以子, 以上 474 名

平成 23 年度 支部学術大会一覽

開催数 支部名	学術大会開催日 および 大会長	会 場 (住所・TEL)	大会事務局 (住所・TEL・担当者)
第31回 東北 北海道	平成23年 11月5日(土)～6日(日) 第31回大会長：福田 雅幸	秋田県民会館・秋田県生涯学習 センター 分館ジョイナス 〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町2-52 TEL：018-834-5055 FAX：018-834-5056	秋田大学医学部附属病院歯科口 腔外科 〒010-8543 秋田県秋田市本道1-1-1 TEL：018-884-6188 FAX：018-884-6451 高野裕史
第31回 関東 甲信越	平成24年 2月11日(土)～12日(日) 第31回大会長：春日井昇平	京王プラザホテル 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 TEL：03-3344-0111 (代表)	東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学 〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 TEL：03-5803-5774 FAX：03-5803-5774 塩田 真
第32回 中部	平成23年 9月16日(金)～18日(日) 第41回年次学術大会併催 第32回大会長：堀田 康記	名古屋国際会議場 〒464-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西 町1-1 TEL：052-683-7711 (代表) FAX：052-683-7777	愛知学院大学歯学部高齢者歯科 科学講座 口腔インプラント科内 〒464-8651 愛知県名古屋市千種区末盛通 2-11 TEL：052-751-7191 FAX：052-751-7193 村上 弘
第31回 近畿 北陸	平成23年 12月10日(土)～11日(日) 第31回大会長：正田 農夫	奈良県文化会館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町6-2 TEL：0742-23-8921 FAX：0742-22-8003	奈良県立医科大学口腔外科学講座 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840 TEL：0744-22-3051 FAX：0744-29-8876 川上哲司
第31回 中国 四国	平成23年 10月15日(土)～16日(日) 第31回大会長：浜川 裕之	15日(土) 愛媛県歯科医師会館 16日(日) 松山全日空ホテル 15日(土) 〒790-0014 愛媛県松山市柳井町2-6-2 TEL：089-933-4371 (代表) FAX：089-932-5048 16日(日) 〒790-8520 愛媛県松山市一番町3-2-1 TEL：089-933-5511 (代表) FAX：089-921-6053	羽倉歯科医院 〒799-2118 愛媛県今治市波止浜11-169 TEL：0898-36-5151 FAX：0898-36-5207 羽倉隆昌
第29回 九州	平成24年 1月21日(土)～22日(日) 第29回大会長：松井 孝道	宮崎シーガイア ワールドコンベンションセンター 〒880-8545 宮崎県宮崎市山崎町浜山 TEL：0985-21-1166 FAX：0985-21-1315	根井歯科医院 〒880-0824 宮崎市大島町原ノ前1445-35 TEL：0985-29-7169 FAX：0985-29-7164 根井俊輔

MORITA **SPI[®] System**
Swiss Precision Implant

Welcome to SPI World.

オッセオインテグレーション期間の短縮を目指したインプラント。表面性状 骨生理学への深い理解によって生まれました。

THOMMEN Medical

医療機器承認番号 22000BZX01433000

製造販売 **株式会社モリタ**
大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
www.dental-plaza.com

問合せ先 **商品本部 インプラント部**
大阪府吹田市江坂町1-23-28 (江坂南口ビル6F)
〒564-0063 TEL:06-6384-6921 FAX:06-6384-6746
東京都台東区上野2-11-15
〒110-8513 TEL:03-3834-6165 FAX:03-3834-2818

Aadva™ **GC[®]**

DIAGNOSIS REGENERATION
MAINTENANCE
CEMENTATION
IMPLANT BODY
LAYERING MATERIAL ABUTMENT COPING CAD/CAM SYSTEM

ADVANCED TECHNOLOGY
TOTAL INTEGRATION

先端技術を統合させたシステムで、世界中の臨床家をサポートします。

株式会社 ジーシー www.gcdental.co.jp/

SHORT IMPLANTS

骨造成の必要性を最小限に!
インプラント埋入の可能性を最大限に!
www.bicon.co.jp

4.5 x 8.0mm 5.0 x 8.0mm
4.5 x 6.0mm 5.0 x 6.0mm
6.0 x 5.7mm

上顎洞を回避したインプラント埋入を実現

術前 術後12年

Since 1985 » Simple. Predictable. Profitable.
Bicon World Headquarter : www.bicon.com

bicon **DENTAL IMPLANTS** **バイコンジャパン株式会社** : www.bicon.co.jp
TEL:0120-8150-62, FAX:0120-418-117, e-mail:info@bicon.co.jp
外周製造医療用具承認番号 208008ZG00044000, 208008ZG00045000, 208008ZG00046000

HAKUHO **Zimmer | dental**

HA インプラントの未来を築く
インプラント業界のリーディングカンパニーをめざして。

スプライン インプラント システムは、生体硬組織の主成分であるハイドロキシアパタイト(HA)をボディの表面へ強固にコーティングされたインプラントです。1回法にも2回法にも対応が可能で、抜歯即時埋入インプラントへの応用にも実績があり幅広い症例に適応できます。歯科医に求められ、患者が求めるMI(ミニマム・インターベンション)の実績に加え、機能性と審美性を向上させるためのテクノロジーをも兼ね備えたスプライン インプラント システムは、臨床に登場した1992年以來、18年間多くの実績と評価を積み重ねています。

先進の口腔インプラントシステム
SPLINE IMPLANT SYSTEM
MP-1™

*1 インテグラル : 20400BZY00156000
スプライン インプラント システム : 21100BZY00289000
スプライン インプラント シリンダー : 21700BZY00224000
医療機器製造販売業許可番号 : 13BIX00079

TEL.03-3265-6251 FAX. 0120-118-084
〒102-0083 東京都千代田区豊町1-3-23

株式会社 白鵬

お詫び

インプラントニュース第12号に掲載いたしました各種専門資格合格者の中で、氏名に誤りがありました。大変ご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。

平成21年度専門医合格者

誤	正
九州インプラント研究会 串 博	九州インプラント研究会 大串 博

平成21年度インプラント専門歯科衛生士合格者

誤	正
那須 恵理香	那須 恵里香

NanoTite™ Tapered

I M P L A N T S



テーパー形状

NanoTite 表面

良好な固定を達成した
スレッドデザイン

スパイラル・インクリメンタル・
カッティング・エッジ (ICE)

ドーム形状の先端

ナノタイト・インプラントは オッセオタイト表面
性状の利点を基に複雑な表面構造を作製し
リン酸カルシウム (CaP) の生物学利点
をさらに活用することによって作られています。
ナノタイト・インプラントのナノレベル構造は、
オッセオインテグレーションに重要な役割を
果たすと考えられています。



PROVIDING SOLUTIONS - ONE PATIENT AT A TIME™

バイオメットスリーアイジャパン 医療機器承認番号 22200BZ100018000
 本社 〒561-0872 大阪府豊中市寺内2-4-1 緑地ビル4F Tel:06-6868-3012 Fax:06-6868-2444
 東京オフィス 〒105-0014 東京都港区芝1丁目6-10 芝SIAビル6F Tel:03-6682-3102 Fax:03-6683-8514

広報委員会からのお知らせ

春日井昇平（東京医科歯科大学）が委員長を務めています。現在の広報委員会のメンバーは以下の通りです。

委員長：春日井昇平

副委員長：五十嵐俊男

委員：山内六男，嶋田 淳，十河基文，
内藤宗孝，北川 昇，土屋直行

今後とも広報委員会は、ニュースレターとホームページを通じて会員の皆様に学会の情報を素早く正確に伝達するよう努力致しますので宜しくお願い致します。ご意見，ご要望等ございましたら，以下の連絡先にご連絡ください。

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45
 東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学
 春日井昇平

電話：03-5803-5934

ファックス：03-5803-5934

メールアドレス：kas.mfc@tmd.ac.jp



SPI[®] System
Swiss Precision Implant

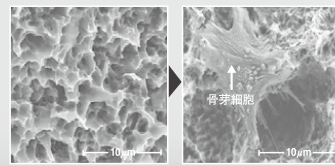
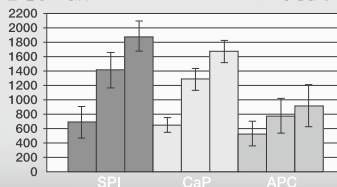
SPI for Simplicity

適合のよい表面性状 (RT) !!

1. オッセオインテグレーション能力を強化した新表面性状

表面にプラスティング処理を施した後、高温で酸エッチング処理を行い、表面に均一で微細な凹凸状態を作り出しました。

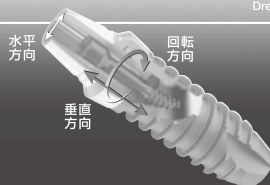
引き抜きトルク2、4、8週間後 | 骨芽細胞の生着の様子



※図1文献

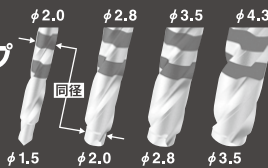
2. アバットメントとの適合を高める精密性

回転方向、水平・垂直方向にも少ないマイクロギャップ



3. シンプルな手順でぶれにくい形状のドリルステップ

1ステップ前のドリルと同径のガイドを有しているため、位置がぶれにくい形状です。



※図1文献: Ferguson S.J, Langhoff J.D, Voeller K, von Rechenberg B, Schwarmweber D, Bierbaum S, Schnabelrauch M, Kautz AP, Frauchiger VM, Mueller TL, van Lenthe GH, Schlottig F. Biomechanical Comparison of Different Surface Modifications for Dental Implants. Int J Oral Maxillofac Implants 2008; 23: 1037-1046

- 一般的名称 歯科用骨内インプラント材/販売名 SPI システムインプラント
医療機器承認番号 22000BZX01433000/医療機器の分類 高度管理医療機器 (クラスⅢ)
- 一般的名称 歯科用インプラントアバットメント/販売名 SPI イージーアバットメント
医療機器承認番号 21600BZY00529000/医療機器の分類 高度管理医療機器 (クラスⅢ)
- 一般的名称 単回使用整形外科用バー/販売名 ベクト パイロッドドリル 4本入
医療機器承認番号 22000BZX01013000/医療機器の分類 管理医療機器 (クラスⅡ)
- 一般的名称 単回使用整形外科用バー/販売名 ベクト ツイストドリル 4本入
医療機器承認番号 22000BZX01016000/医療機器の分類 管理医療機器 (クラスⅡ)

製造販売 **株式会社モリタ**

大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
www.dental-plaza.com

問合せ先 **商品本部 インプラント部**

大阪府吹田市江坂町1-23-28 (江坂南口ビル6F) 〒564-0063 TEL:06-6384-6921
FAX:06-6384-6746
東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6165
FAX:03-3834-2818

THOMMEN
Medical

目次

本号のトピックス	1
公益社団法人移行について	1
第40回 日本口腔インプラント学会学術大会開催報告	2~3
DGI ドイツインプラント学会に出席して	4~5
第41回 日本口腔インプラント学会学術大会のご案内	5~6
名誉会員紹介	6
第40回 日本口腔インプラント学会学術大会受賞者紹介	7
平成22年度 表彰者紹介	
学会特別功労賞	7
学会特別賞	7~8
学会特別論文賞	9~10
学会優秀論文賞	10
学会奨励論文賞	11~12
優秀研究発表賞	12~15
デンツブライ賞	15~17
第6回 口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会開催報告	18~20
専門歯科技工士委員会からの情報	20~21
平成22年度 ケースプレゼンテーション試験合格者	21
新入会者紹介	22~23
平成23年度 支部大会一覧	24
広告	25~28
目次	28



Astra Tech BioManagement Complex™

— function, beauty and biology in perfect harmony —

TiOblast®

TiOblast®は二酸化チタン(TiO₂)の粒子をフィクスチャー表面に吹き付けて表面をブラストすることにより、フィクスチャーの表面を2~10μmの均一な粗造面にして、骨組織との機械的な嵌合をより強固にします。また、骨に適度な刺激を与え、インプラント周囲の骨の再生を促します。

Micro Thread™

アストラテックインプラントのネックは、最適な荷重分配を提供し、掛かるストレスを軽減できるようにMicro Thread™と呼ばれる微小ネジ構造で設計されています。

このデザインは、最適なインプラントデザインに不可欠な骨生理学の完全な理解に基づいています。骨組織がそれを維持するためには、機械的に周囲の骨を刺激するデザインであること、インプラントと骨の界面に重要なポイントを持つこと、辺縁皮質骨のどの位置にピークストレスが起こるかを考慮に入れていなければならないと云うことです。

Conical Seal Design™

Conical Seal Design™とは、インプラントに掛かる荷重を骨より深い位置に分散するための、辺縁骨レベル下でおこなう円錐形の接続様式です。

Conical Seal Design™の辺縁骨と、フラット・トゥ・フラットのデザインのものと比較して、Conical Seal Design™では、インプラントに掛かるピークストレスを軽減し、そしてそれによって辺縁骨を保護します。それはまた、微小動揺と微小漏洩を最小限にし、周囲の組織からインプラントの内部を封鎖します。

Connective Contour™

Connective Contour™とは、アストラテックのインプラントとアパットメントが接続されるときに作られるユニークなContour(輪郭)のことです。このContourは、インプラントと結合(融和)する周囲の軟組織の高さとボリュームの増加を許容します。それはまた、辺縁骨を封鎖し、保護することになります。

承認番号	207008ZG00070000
	208008ZG00033000
	208008ZG00034000
	220008ZX01103000
国出番号	13B1X000200000004
	13B1X000200000005
	13B1X000200000007
	13B1X000200000008
	13B1X000200000009



製造販売業者 アストラテック株式会社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-16 TEL:03-5775-0515 FAX:03-5775-0571 <http://www.astratech.jp>